

東京都立大島海洋国際高校生の施設見学(その2)

2009年12月07日



大島海洋国際高校の2年生15名と引率の先生



1ccに東京都人口の2倍のナンノクロロプシスが...



生け簀へ移動。遠方に伊江島タッチュー(グスク山)が見えます。



淡水浴により、小型ヤイトハタに付いたハダムシを落としています。



体重40kgのタマカイ(ハタ類)は迫力があります。



食欲旺盛なスギの1歳魚に餌を与えています。



マダイの美白シート(日焼け防止)。



培養中のワムシ(左)と、その餌となるナンクロロプシスの濃縮装置(右)です。



マダイ稚魚を生産する水槽。今まさに親魚の産卵待ちです。
高水温に弱いマダイ種苗が、夏までにある程度の大きさまで生長できるように
親魚水槽の水温を調整する(早い冬と春を経験させる)ことで、この時期に産卵させます。



ヤイトハタ親魚水槽。今日は恥ずかしかったのか、皆の反対側(画面外)にたくさん集まっています。



米粒ほどのタカセガイ(サラサバテイ)稚貝が見えるかな？



シラヒゲウニの稚ウニです。



ヒメジャコ(シャコガイ)の稚貝(左)と親貝(右)。
外套膜(がいとうまく)が鮮やかなものを見て、女子の皆さん「飼いたい~！」(買いたい?)を連発。
養殖されたシャコガイは、食用はもちろん、観賞用としての需要があるんですよ。

みなさん、おつかれさまでした。